

## 1 カヌースプリントについて

200m、500mなどの直線コースをいかに早く漕ぎきるかを競う。競技には、進行方向に向かって両ひざをそろえ足を前に出して座り、両端にブレード（水かき）がついたパドルを左右交互に漕いで進む「カヤック」と、立てひざの姿勢で座り、片側にブレードのついたパドルで艇の片側だけを漕いで進む「カナディアン」の2種類がある。

インターハイでは、男子カヤック・女子カヤック・男子カナディアンの種別があり、更にそれぞれにシングル・ペア・フォアの種目がある。



## 2 大会について

### 高体連主催

- ・学校総合体育大会兼関東高等学校カヌー選手権県予選会兼全国高等学校総合体育大会県予選会
- ・関東高等学校カヌー選手権
- ・全国高等学校総合体育大会
- ・県民総合体育大会兼高校新人大会兼関東高等学校カヌー選手権選抜大会県予選会
- ・関東高等学校カヌー選手権選抜大会

### その他

- ・海外派遣選手選考会（3月・5月）
- ・文部科学大臣杯
- ・日本選手権（日本カヌースプリントジュニア大会）

※その他、エントリー可能な地方大会が開催されている。

### 3 普及への取り組み

埼玉県では県立浦和高校・市立大宮北高校・越谷東高校にカヌー部があり男子52名、女子18名が所属している。毎年、各学校で部活動勧誘をしっかりと行っている結果、部員数が維持できている。

県カヌー協会は、プラチナキッズの開催で小学生に対してカヌー体験を行い、裾野を広げるよう努力している。

また、県内でカヌースプリントのクラブチームとして活動を行っている団体が3つあり、小・中・高だけでなく一般も含む幅広い年代が、競技に取り組んでいる。

### 4 普及への課題

各校単独での指導になると指導者が圧倒的に少ない。カヌースプリント経験の顧問が1校にしかいない。指導者の資質向上のため、指導者講習会や合同練習、県カヌー協会主催の強化練習等で競技についての練習方法や指導法を学んでいるが、現状としては技術（テクニック）については、生徒への指導が十分行えていない。また、関東近県合同合宿等も開催されているが学校行事で参加できない場合だけでなく、交通費に加え艇移動費も高額であるため、参加することが難しい。

指導者育成のため、進学し競技を続けて教員として戻ってもらいたいのだが、全国を見てもカヌー部のある大学は限られている。また、高校での競技成績を考えると大学では通用しないのではないかと不安を持ち、進学してまで競技を続けられないのが現状である。

中学生でクラブチームに所属していたとしても進学できる高校が限られてしまう。また、カヌー部のない高校に進学してしまった場合、高体連主催の大会への出場は断念しなければならないことがある。

活動場所についても課題がある。越谷東高校は、横を流れる元荒川で練習が可能であるが水位の変動が激しく乗艇できないことが多々ある。他2校については、放課後に練習をする場合、戸田ボートコースへ行かなければならない。移動時間が少なく、常時練習できる環境がほとんどない。県カヌー協会の強化練習や合同練習では、幸手市行幸湖（権現堂調節池）で練習が行えるが、交通費が高く南栗橋駅から歩いて30分強かかってしまうので、ひと月に何回も行くとなると生徒への負担が大きくなる。

現在、使用している艇のほとんどが県カヌー協会所有のもので、2004年埼玉国体でそろえた艇である。使用による傷みだけでなく経年劣化もあり状態としてはいいものではない。繰り返し修理を行い、何とか試合でも使える状態ではあるが、部員数に対して艇数が十分でないうえ、安易に艇を購入することができない。艇やパドルが高額であるため、個人で購入することが非常に難しく保管場所にも困る。

カヌースプリントを普及させ競技力向上へ繋げるためには、様々な課題を乗り越えていかなければならないが、3校で連携を取るだけでなく上部団体である県カヌー協会とも連携を取り、カヌーの魅力を発信していきたい。さらに、指導者として埼玉県の教員として戻ってくる人材の育成にも力を入れていきたい。